

1,000トン型(ヘリ甲板付き)巡視船「わかさ」

JAPAN COAST GUARD Patrol Vessel Large



艦船事業本部 横浜事業所

船橋の操舵室には機関管制盤を配置し、機関制御を可能とした他、付近には OIC (Operation Information Center) 室が配置され、指揮機能の集約を図っている。

1. はじめに

本船は、一般警備救難業務及び大規模災害対応を目的として、令和元年度補正予算で建造が認められ、令和 5 年 2 月に竣工した、海上保安庁殿向け 1,000 トン型(ヘリ甲板付き)巡視船である。

以下に本船の特徴を紹介する。

2. 本船の特徴

2.1 1,000 トン型(ヘリ甲板付き)巡視船

本船は 1,000 トン型(ヘリ甲板付き)巡視船であり、平成 21 年度補正予算で 2 隻計画されたのを皮切りに、尖閣諸島周辺海域における領海警備体制強化として、平成 24 年度から平成 25 年度にかけて 16 隻、更に、領海警備に加え、違法操業取締り、一般警備救難業務及び大規模災害対応を目的に、平成 29 年度に 2 隻が計画・建造された巡視船である。

当社として、平成 24 年度補正予算「たらま」、「いけま」、25 年度補正予算「もとぶ」、平成 29 年度予算「つるが」に続く、5 隻目の建造となった。

2.2 性能

汎用性と、停船時及び低速航行時の安定性を重視したプロペラ推進、排水量型船型を採用している。また、航行時の安定性向上を図るために減揺タンクを、ヘリコプター運用を考慮してフィンスタビライザを装備している。

2.3 船体部

船首部に遠隔放水銃、30 mm 機関砲、また船尾部にはヘリコプター甲板を装備している。また、各種搭載艇も装備し、ミランダ式及び中折れ式ボートダビットによる揚収を可能としている。

2.4 機関部

主機関としてディーゼル機関 2 基を装備し、それぞれ可変ピッチプロペラに接続されている。

機関室内は、スペースが限られる中で、各種機器の操作性、整備性や、交通性に最大限配慮している。

2.5 電気部

機関区画にディーゼル発電装置 3 基を備え、船内各所に給電している。

船橋上部に遠隔監視探証装置を備え、望遠カメラ装置によって遠方から近傍まで、広範囲の海上を撮影し、記録することを可能としている。また、船体側面には停船命令等表示装置を備え、海上において周囲の船舶に対し、電光文字による停船命令や防災情報その他の情報を表示して伝達することを可能としている。

3. おわりに

巡視船「わかさ」は海上保安庁殿への引渡しを終え、第八管区海上保安本部殿に配備されております。

現在も横浜事業所磯子工場では、令和 3 年度補正予算にてご発注の、当社として 6 隻目となる同 1,000 トン型巡視船を、鋭意建造中です。

本船のご活躍とご安全を祈念すると共に、今後も巡視船建造に邁進してまいります。

表 1 本船主要目
Table 1 Principal particular

全長	96.00 m
型幅	11.50 m
総トン数	1,500 t
主機関	ディーゼル機関×2 基
推進形式	可変ピッチプロペラ